

公立大学法人金沢美術工芸大学
令和4年度 業務実績評価書

令和5年7月

金沢市公立大学法人評価委員会

目次

I	評価方法.....	1
1	評価の構成.....	1
2	項目別評価.....	1
	ア 法人による自己評価	
	イ 評価委員会による評価	
3	全体評価.....	2
II	評価結果.....	3
1	全体評価.....	3
2	項目別評価.....	4～8
①	大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）	
②	大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）	
③	大学の教育研究等の質の向上に関する目標（社会との連携に関する目標）	
④	大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）	
⑤	業務運営の改善及び効率化に関する目標	
⑥	財務内容の改善に関する目標	
⑦	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	
⑧	その他業務運営に関する重要目標	

I 評価方法

1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

2 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人が作成した年度計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、その進捗状況を次の4段階の評価区分により、判断理由を付して評価する。

※ 年度計画の大項目第6から第10に関しては業務実績のみのため記載省略

【評価基準】

評価区分	評価内容
Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を十分に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない
Ⅰ	年度計画を実施していない

イ 評価委員会による評価

(7) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(4) 評価委員会は、(7)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、その進捗状況を次の5段階の評価区分により評価するとともに、特筆すべき事項や改善が望まれる事項についてコメントを付す。

年度計画	大項目（中項目）
第1	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （社会との連携に関する目標）
	④ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第2	⑤ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
第3	⑥ 財務内容の改善に関する目標
第4	⑦ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第5	⑧ その他業務運営に関する重要目標

※（ ）内は中項目

【評価基準】

評価区分	評 価 内 容
S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
	※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
	※ 評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注)
B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる
	※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている
	※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある
	※ 評価委員会が特に認める場合

(注)評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

II 評価結果

1 全体評価

年度計画に定めた全ての項目が着実に実施され、項目別評価においても全項目がA評価（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）となっており、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

第3期中期目標期間の初年度となった令和4年度は、新たな中期目標の達成に向け積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられた。

特筆すべきは、第3期中期計画から新たに「大学の教育研究の質の向上に関する目標」に追加された社会との連携の推進において、多くの教員及び学生が社会連携事業に積極的に参加することで、実践的なスキルアップと社会貢献を両立させた、特色ある教育を推進したことである。

具体的には、国民文化祭（いしかわ百万石文化祭 2023）の機運醸成のためのプレイベントを、一般教育等の教員が主体となり、芸術学専攻の学生が展示会の企画や運営を担当し、視覚デザイン専攻の学生が広報に取り組んだほか、金沢市と連携し、環境デザイン専攻の教員及び学生が森ミライ活動拠点企画に取り組むなど、例年を上回る学生が社会連携事業に参加し、課題学習ではなく実際の仕事を体験することで実践的な能力を磨きながら、日頃の教育研究成果を社会へ還元した。

このほか、以下に大学の特色ある取り組みや工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・ 令和5年10月の新キャンパス移転を機に新たに設置される共通工房の機能を最大限に発揮できるよう、全学的に協議を進めるとともに、社会の要請に対応した専攻の改編として、令和5年度よりデザイン科をホリスティックデザイン専攻とインダストリアルデザイン専攻の2専攻とするための学則・履修規定の改定を行ったこと。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、対面でのオープンキャンパスを復活させるとともに、令和3年度に作成したオンラインオープンキャンパス用の動画も活用し、対面とオンラインの両面で情報発信を行ったほか、初めての取組として、金沢美術工芸大学が単独で高校生向けの進学説明会を行う「出張オープンキャンパス」を東京・福岡・広島で開催するなど、積極的な入試広報活動を行ったこと。
- ・ 新キャンパス移転に向けて、ビジュアル・アイデンティティの再構築やデザインの使用マニュアルを策定し、金沢美術工芸大学のブランド力向上を推進したほか、受験生等に対して新キャンパスをPRするプロモーション映像の作成と活用による積極的な広報活動を実施したこと。

2 項目別評価

① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の 49 の小項目のうち、IV評価（年度計画を上回って実施している）が 9 項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が 40 項目と、全ての項目がIV又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 所属する専攻・コースの教員だけでなく、他領域の教員からも副担当として指導を受けられる領域横断型の教育が受けられる範囲を、これまでの博士後期課程から修士課程に拡大し、より高度な教育が受けられる環境を充実させたこと。
- ・ 新たに学生生活実態調査を実施し、学生生活全体の把握に努めたほか、特に要望が多かった学生食堂について、追加調査及び詳細な意見聴取を実施し、この結果に基づく食品関連企業への聞き取りに取り組むなど、学生のニーズに対応したきめ細やかな対応を行ったこと。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の長期化等により、学生の心理面への支援の必要性が高まる中、保健師による学生の自殺防止やメンタルヘルスに関する研修など、当初予定していなかったFD研修等について、検討から実施までスピード感を持って取り組んだこと。
- ・ 外国語を母国語とする講師を招いた新たな課外講座「KANABI 語学教育センター」を設置するとともに、履修登録や事前予約を不要とすることで学生が自由に参加できる運用体制を構築し、学生の外国語コミュニケーション能力を高める機会を創出したこと。
- ・ 新キャンパス移転に向けて、ビジュアル・アイデンティティの再構築やデザインの使用マニュアルを策定し、金沢美術工芸大学のブランド力向上を推進したほか、受験生等に対して新キャンパスをPRするプロモーション映像の作成と活用による積極的な広報活動を実施したこと。

② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の15の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が13項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 「平成の百工比照」を活用した高等教育教材として、新キャンパスの「平成の百工比照コレクション」コーナーにおける展示だけでなく、全国の博物館学芸員課程で活用できる質の高い貴重な記録映像を作成し、国内外に発信したこと。
- ・ 金沢美術工芸大学で教鞭を執っていた柳宗理氏の人となりなど、他では聴くことのできない貴重なエピソードが語られたオンライン講演会を開催し、資料として残すことで、特色ある調査研究を推進したこと。

③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（社会との連携に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の13の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が11項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 国民文化祭（いしかわ百万石文化祭 2023）に関連した企画について、各分野の教員及び学生がそれぞれの分野の専門性を活かし、事業連携を行うことで、例年を上回る学生が社会連携事業に参加したこと。
- ・ 社会連携事業を大学における課題学習ではなく、社会における実際の仕事としての経験につながるよう、社会連携センター会議等が調整を行うことで、より実践的な能力を身につける機会とするとともに、大学教育の独自性を高めたこと。

④ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の13の小項目のうち、Ⅳ評価が3項目、Ⅲ評価が10項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 欧州圏における新たな交流校として、デンマーク王立美術院及びエディンバラ大学と連携協定を締結し、長期留学を前提とした学生の派遣・受入を行う合意を得たこと。
- ・ 民間企業と連携した新事業として、「金澤町家」を活用したアーティスト・イン・レジデンス事業を実施し、滞在アーティストに金沢の文化や歴史を肌で感じた創作活動に取り組んでもらう一方、大学の授業への参加や、学生との協働によるワークショップにより交流を深めるとともに、今後も海外から高い資質を持つアーティストを継続的に招聘することができる関係を構築し、教育の国際化を推進したこと。

⑤ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の10の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が8項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 令和5年度開設予定の大学院映像コースに配置する教員を採用し、綿密な打合せのうえカリキュラム等を作成した。また、UI/UX分野における企業での実践経験豊富な教員の採用を決定するとともに、新キャンパスに整備する共通工房に配置する新たな職種である技術専門員の選考を行うなど、移転後の大学運営を見据えた積極的な人材採用を行ったこと。

⑥ 財務内容の改善に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の13の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が11項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 外部資金、寄附金等の獲得に向け積極的な取組を推進した結果、産学連携事業を8件、地域連携事業を23件受託し、過去最高となる42,272,400円の受託研究収入を計上したこと。

⑦ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の6の小項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が5項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 新キャンパス移転プロモーション事業として、金沢市文化ホールでの収蔵品展を開催したほか、金沢駅もてなしドームでの移転PRタペストリー設置、ラッピングバスの運行、東京での企画展開催等、新規性や独自性あるプロモーションを積極的に展開し、移転機運の醸成が推進されたこと。

⑧ その他業務運営に関する重要目標

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の23の小項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が21項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○ 特筆すべき点

- ・ 新キャンパスの備品調達において、半導体不足や物価上昇に伴う製品価格高騰等、調達に支障を来す厳しい状況下において、金沢市との連携により、予算の増額やキャンパス整備の進捗にあわせた発注を行うなど、次年度の移転開学に向けた確な業務運営が達成されたこと。